2

3

4

1

1 社員のチームワークは抜群。現場では、熟練技術者はもちろん、若手や女性の活躍も光る 2 社長自ら社員の声に耳を傾け、働きやすい環境整備を進めている 3 駐車場整備を寄贈した地元の小学校児童からもらった寄せ書きを手に、「地域に貢献できて何より」と笑顔を見せる高橋社長 4 官公庁からの受注も多く、各種施工実績を誇る

59
LEADING COMPANY

高橋建設 株式会社

● 総合建設業

社会インフラの整備を通じて地域の幸せを守り、発展を導く

《高橋建設株式会社》は土木事業を端緒に、建設業や水道管工事、電気・通信関連工事などまで業務の多角化を推進。創業50年の今、地域の安心安全な暮らしに欠かせない存在となっている。

創業50年を機にロゴを一新 新事業も積極的に展開

準大手ゼネコンの技術者だった初代が1975年、土木業で創業。その後、砕石事務所、給油所を開設し、産業廃棄物処分・収集運搬業も始めた。水道管工事や電柱設置作業なども担い、地域のインフラ全般をすべて直営でやってきた。2代目である高橋宏聡社長(53)が会社の原点に掲げるのが、地域の幸せだ。「創業者である父は、小さかった私によく『人を幸せにする仕事をしなさい』と言っていました。地域の人に喜んでもらえる仕事をすることが事業の大前提でした」。創業50年を前に昨年、地元小学校の玄関前駐車場の補修を寄付。「子どもたちや先生に喜んでもらえて何よりです」

ニーズに合わせて多角的に事業展開することで会社の成長と地域の発展を促す一方、現場作業から施工管理まで一貫対応できる体制を維持し、災害などの非常事態でのスピーディーな対応を可能にしてきた。昨今、老朽化による水道管破裂が全国的に課題となっているが、上水道の本管工事を行えるのは益田市内で唯一同社のみ。多くの建設機械と、専門の知識と技術を備えた人材を保有し、夜中でも駆け付ける〝地域の守り手〟として存在感を放っている。

50周年を機に会社のロゴを一新。未来性を感じさせるスタイリッシュなデザインがさらなる成長をイメージさせており、社内外で好評だ。現在コンシェルジェ付きマンションを企画しているほか、地元資源を活用したリゾート開発など複数の新たな事業を構想中。展開する事業は広がりを見せるが、根っこの思いは変わらない。地域の、そして大切な人たちの幸せだ。

TAKAHASHI KENSETSU

高橋建設 株式会社

創　業　昭和50 (1975) 年5月1日
代表者　代表取締役　高橋 宏聡
社員数　119名 (男90名　女29名)
本　社　島根県益田市遠田町3815-1

事業内容

土木工事、建築工事、
産業廃棄物処理、採石、雑貨販売、
ガソリンスタンド、環境衛生 など

勤務地(採用エリア)

益田市

採用区分

新卒採用　キャリア採用

インターンシップ・キャリア

有　日程が決まり次第、採用サイトとInstagramにて、順次情報を公開。

採用担当者からあなたへ

地域とともに歩み、誠実なものづくりで信頼を築いてきた高橋建設。現場には助け合う温かい空気と、新しい挑戦を応援する風土があります。地域の未来を、自分の手で形にしたい方をお待ちしています。

社長室室長
佐々木 知子さん

採用に関するお問い合わせ先

0856-23-2344

公式サイトはこちら　動画サイトはこちら　Instagramはこちら

高橋建設を支えるベテラン&ルーキー

国発注工事で優秀建設技術者表彰 災害時にも徹夜で現場対応

管理部 次長
波田 泰輔さん(48)
1999年入社

一級土木施工管理技士として現場の施工管理を担当。27年の長いキャリアでは、上下水道工事や電線共同溝工事、道路土工などさまざまなインフラ工事に従事してきた。近年で印象に残るのは、2023年竣工の三隅・益田道路大浜第1高架橋下部工事。4本の橋脚施工を同時進行するため、20人以上ものスタッフが1年半の工期内で効率的に作業が行えるよう知恵を絞った。「一番大切なのは安全。こまめに現場を回ってスタッフに声を掛け、体調管理にも気を使いました」。高い技術力が評価され、国土交通省から会社が優良工事施工団体に、波田さんは優秀建設技術者に表彰された。

20歳で入社。携わる現場の規模が次第に大きくなり、会社の成長を肌で感じてきた。「当初は市町村や県発注の工事がほとんどでしたが、次第に国発注の工事が増えてきました」。災害時にも出動。大雨で道路が崩落した時には徹夜で対応にあたった。

「いつかトンネル工事を手がけたい」。キャリアを重ねてなお、技術者としての高い意欲を見せる。

ICT活用し、ワンマン測量も 実務経験重ね、資格取得を目指す

管理部
大谷 奏真さん(19)
2025年入社

土木関係の仕事をしている父親にも影響され、高校では環境土木コースに進学。同社でインターンシップを経験し、雰囲気の良さに惹かれて入社を決めた。現在は管理部で写真撮影や測量などを担当。「高校でも測量の実習がありましたが、施工現場でのプレッシャーは桁違い。正確性とスピードの両立がまだまだ難しいです」と苦笑する。やる気を見せる大谷さんに社内の期待も大きい。トータルステーションを使ったワンマン測量の結果をもとに、発注者向け資料の作成を任されたことも。「若くても責任を持たせてもらえるのでモチベーションが上がります」

実務経験を積み、土木施工管理技士の資格取得を目標にする。将来は規模の大きな道路工事に携わるのが夢だという。「長期間、道路工事に従事していた父親の姿が格好良くて」。完成した道が形として残るのも、土木業界ならではの魅力だ。

同社では2025年から土日祝日が基本完全休日に。運転免許を取ったばかりの大谷さんは、友人とのドライブでリフレッシュしている。